

このメールは大田区の配信情報提供サービスに登録されている方に送信しています。

大田区保健所メール 4 月号 令和 7 年 3 月 28 日

【 目 次 】

- 1 感染症情報
- 2 食中毒発生状況
- 3 トピックス
 狂犬病予防定期集合注射を実施します
- 4 特集
 ボツリヌス菌による食中毒に注意しましょう

1 感染症情報

◆感染症の最新情報はこちらから◆

↓↓↓

○大田区「感染症週報」

https://www.city.ota.tokyo.jp/seikatsu/hoken/kansen_taisaku/syuuhou.html

◆◆◆感染症流行状況について◆◆◆

感染性胃腸炎は第 9 週（2 月 24 日から 3 月 2 日）15.54 から第 10 週（3 月 3 日から 3 月 9 日）13.31 と減少しています。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は第 9 週 1.54 から第 10 週 3.46 と増加しています。

【感染性胃腸炎】

大田区は東京都と比較して感染者が多い状況です。感染性胃腸炎の警報レベルは 20.00 です。大きな流行とならないよう、次のことに注意してください。

感染性胃腸炎は微生物を原因とする胃腸炎の総称です。ウイルス感染による胃腸炎が多く、主な症状は吐き気、おう吐、下痢、発熱、腹痛などです。特別な治療はないため、対処療法が行われます。乳幼児や高齢者は下痢等で脱水症状を生じることがありますので、早めに医療機関を受診することが大切です。

病原体が付着した手で鼻や口などを触れることによる接触感染、汚染された食品を食べることによる経口感染によって感染が広がります。手洗いの徹底と、糞便・嘔吐物の適切な処理をし、感染拡大防止に努めましょう。

○大田区「感染性胃腸炎（ノロウイルスを中心に）」

https://www.city.ota.tokyo.jp/seikatsu/hoken/kansen_taisaku/noro.html

◆◆◆麻しん（はしか）について知っていますか◆◆◆

国内で麻しんは排除状態にありますが、渡航者が増加した 2023 年以降、報告数が増加しています。2025 年に入り、国内では 22 件報告があり、うち東京都は 1 件でした。渡航先で感染した事例の報告が増加しています。麻しんは世界的、特にアジアで流行しており、ワクチン未接種の渡航者が帰国後に発症する可能性が高まっています。

○麻しん（はしか）とは

麻しん（はしか）は麻しんウイルスを原因とする感染症です。

典型的には、10 日から 12 日間の潜伏期間の後、38 度程度の発熱や風邪症状が 2 日から 4 日続き、その後 39 度以上の高熱とともに発疹が出現します。主な症状は、発熱や発疹の他に、咳、鼻水、目の充血などです。感染力が非常に強く、合併症として、肺炎、脳炎を引き起こし、重篤になることがあります。

○感染経路

空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。感染力はきわめて強く、免疫を持っていない人が感染すると 90 パーセント以上が発症します。周りへ感染させる期間は、症状の出現する 1 日前（発疹出現の 3 日から 5 日前）から発疹消失後 4 日くらいまで（または解熱後 3 日くらいまで）とされています。麻しん（はしか）と診断を受けた方と接触した場合には 10 日間程度は、体調の変化に十分注意をしてください。症状が見られたときには、麻しん患者と接触したことを予め医療機関に伝えた上で、受診してください。

○治療

特別な治療法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。

○感染予防策

麻しんは予防接種で防げる病気です。定期予防接種の対象となる方は早めに予防接種を受けましょう。

定期予防接種は 1 期、2 期の期間を対象としています。

1 期：1 歳以上 2 歳未満

2 期：5 歳から 7 歳未満で小学校就学前 1 年間

定期予防接種では、麻しん・風しんの混合ワクチン（MR ワクチン）として接種します。

確実な免疫を得るためには、99%以上の方が免疫がつくと言われる 2 回（1 期、2 期）の接種が望ましいとされています。2 期の接種率が低下しています。確実な免疫を得るため、1 期

2 期とも忘れずに接種しましょう。

○大田区「麻しん（はしか）」

https://www.city.ota.tokyo.jp/seikatsu/hoken/kansen_taisaku/hoka_kansensyo/mas_in.html

2 食中毒発生状況

■大田区の食中毒発生状況

令和 7 年 2 月に食中毒は発生していません。

■東京都の食中毒発生状況

令和 7 年 2 月に、23 件（患者 321 名）の食中毒が発生しました（令和 7 年 3 月 15 日現在）。食中毒の病因物質は、ノロウイルス 18 件（患者 294 名）、カンピロバクター 3 件（患者 16 名）、アニサキス 1 件（患者 1 名）、ウエルシュ菌 1 件（患者 10 名）でした。原因施設は飲食店（一般）22 件（患者 320 名）、不明 1 件（患者 1 名）でした。

○東京都「都内の食中毒発生状況（速報値）」

https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/shokuhin/tyuudoku/r7_sokuhou.html

3 トピックス

■ 狂犬病予防定期集合注射を実施します

▽ 期間 令和 7 年 4 月 12 日（土）～21 日（月）

▽ 会場 区内指定動物病院

犬の飼い主には、年 1 回（4 月から 6 月の間）飼い犬に狂犬病予防注射を受けさせることが法令で義務付けられています。大田区では、狂犬病の発生及びまん延を予防するため集合注射を実施しますので、ぜひご利用ください。

会場では、狂犬病予防注射と同時に注射済票の交付や犬の新規登録を受け付けます。マイクロチップを装着している犬の新規登録については、環境大臣指定登録機関で行ってください。なお、環境大臣指定登録機関へマイクロチップ情報登録をしていただくと、大田区の登録とみなされます。

○大田区ホームページ「令和 7 年度狂犬病予防定期集合注射」

https://www.city.ota.tokyo.jp/seikatsu/hoken/pet_dog_cat/dogother/cyusya.html

○環境省「オンラインでマイクロチップ情報を登録しましょう」

<https://reg.mc.env.go.jp/>

4 【特集】ボツリヌス菌による食中毒に注意しましょう

令和 7 年 1 月に新潟県で、容器包装詰の要冷蔵食品を常温保管し、喫食したことを原因とするボツリヌス食中毒が発生しました。

【症状】

ボツリヌス食中毒は、ボツリヌス菌が作りだす毒素を含む食品を摂取することで発症します。潜伏期間は 8～36 時間とされています。初期症状として、悪心・嘔吐及び下痢等の消化器症状があります。特有の症状として、物が二重に見えたり、手足に力が入りにくくなり、放置すると呼吸困難などを起こして短時間で命にかかわる重い食中毒です。発症したら、直ちに治療が必要です。すぐに医療機関を受診してください。

【ボツリヌス菌の特徴と対策】

ボツリヌス菌は、土壌・水などに広く存在し、常に食品を汚染する危険性があります。また、生存に厳しい環境になると、生き残るために芽胞と呼ばれる細胞構造を形成します。芽胞は熱にとっても強く、100℃程度では、長い時間加熱しても殺菌できません。真空パックのような、酸素が極めて少ない、生育に適した環境で芽胞が発芽、増殖し、毒素を作ります。作りだされた毒素は、80℃30 分間（100℃なら数分以上）の加熱により毒性を失います。対策として以下の方法があげられます。

- ・食べる前に十分な加熱をしましょう。
- ・食品を購入した際は、表示をよく確認し、適切な保存をしましょう。120℃4 分以上又は同等の加熱加圧殺菌がなされ、「レトルトパウチ食品（容器包装詰加圧加熱殺菌食品）」と表示されているものは常温で保存できますが、間違えやすい食品も流通しています。「要冷蔵」「10 度以下で保存」などの表示がある真空パックなどの一部の密封食品は必ず冷蔵保存してください。
- ・膨張、異臭がある場合は、菌が増殖している可能性があります。絶対に食べないようにしましょう。

【乳児ボツリヌス症】

1 歳未満の乳児にみられるボツリヌス症です。乳児では、ボツリヌス菌の芽胞を摂取すると腸管内で菌が増殖し、産生された毒素が吸収されてボツリヌス菌による症状を起こすことがあります。症状は、便秘状態が数日間続き、全身の筋力が低下する脱力状態になり、哺乳力の低下、泣き声が小さくなる等、筋肉が弛緩することによる麻痺症状が特徴です。予防のため、1 歳未満の乳児には、ボツリヌス菌の芽胞に汚染される可能性のある食品（ハチミツ等）を食べさせないようにしましょう。

